

舌と歯周病の関係について

The relationship between the tongue and periodontal disease

○功刀 初穂^{1) 2)}, 王 怡文¹⁾, 二瓶 敦子¹⁾, 中村 信也¹⁾

1) 東京家政大学院, 2) 医療法人社団しらゆり会しらゆり歯科医院

The diagnostic tongue-inspection examination is practiced commonly by a traditional Chinese clinician because of reflection of a general status. The periodontal disease is regarded occurring locally as oral problem in a western medicine. Therefore the examination are only X-ray of teeth and gingival inspection neglecting a tongue inspection. We believe that the periodontal disease should show the changes of tongue findings revealing the general status. We studied the correlation with tongue changes and periodontal one.

【目的】

舌は全身状態の変化が現れやすいことから「全身を映す鏡」と東洋医学では言われている。舌所見から身体の状態を知ることが「舌診」という。舌は内臓の状態を反映し、全身の気・血・水の状態を現わしているとされる。西洋医学における歯周病は口腔内の問題とされ、その検査方法は、歯のレントゲン検査と歯周の精密検査が主であり、舌については無視されている。歯肉の変化は全身の状態と関係していて、舌にも何らかの変化が現れると思われる。

【方法】

千葉県松戸市にあるしらゆり歯科医院の患者にアンケート調査と問診と舌の口腔内写真で、東洋医学における舌診法を用いて、歯周病との関係を探ってみた。

による舌診を行った。〔省略〕アンケートの内容は、既往歴、内服薬の有無と質問 14 項目を 3 段階で評価し、点数化した。被験者は男女年齢を問わない 16 歳以上の成人とした。(以下略)

【結果】

舌の所見により歯周病の発症や進行に違いがあることが分かった。舌診による舌の所見の内容と歯周病には何らかの関係が見られた。

【結論】

舌診による診断と歯周病の間に何らかの関係があることが分かったことから、歯周病の診断方法の一つに舌診を加えていくことが有効であると思われる。患者の全身状態を舌診により診断し体質を変え、全身の気血水の状態を治療すると、従来の歯周病治療の成績よりさらによい治癒効果があるのではないかと考えられる。